

<IPA 情報発信第 141 号の内容>

I. 今月のトピックス

1. 林幹雄経済産業大臣ご来構

林幹雄経済産業大臣が、昨今のサイバーセキュリティを巡る状況からその役割の重要性がますます高まる IPA セキュリティセンターに、視察のため 1 月 14 日(木) に来訪されました。

2. サイバー情報共有イニシアティブ (J-CSIP) に自動車関連業界が新たに参加

J-CSIP は、去る 2015 年 12 月 1 日 (火) から自動車関連企業・団体の計 10 組織からなる「自動車業界 SIG」を新設し、試験運用を行っていました。このたび、1 月 26 日 (火) より情報共有の正式運用を開始しました。これにより、J-CSIP 全体では 7 つの業界 (SIG)、72 の参加組織の体制となりました。

3. 「攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX」と新国家試験「情報セキュリティマネジメント試験」がコラボ

IPA は、本年のサイバーセキュリティ月間 (2 月 1 日~3 月 18 日) における官民連携イベントの一環として、講談社・攻殻機動隊製作委員会、NISC、JNSA と連携して、平成 28 年度から実施する新たな国家試験「情報セキュリティマネジメント試験」の活用促進など、サイバーセキュリティ人材の育成・確保を目的とした普及啓発キャンペーンを実施しています。

II. セキュリティセンター

1. コンピュータウイルス・不正アクセスの届出状況および相談受付状況
2. ソフトウェア等の脆弱性関連情報に関する届出状況
3. 脆弱性対策情報データベース JVN iPedia の登録状況
4. 重要なセキュリティ情報 (1 月)

III. ソフトウェア高信頼化センター (SEC)

1. 「第 13 回クリティカルソフトウェアワークショップ (13th WOCS²)」の共催
2. 「ソフトウェア品質向上研究会主催セミナー ソフトウェア品質向上に向けた国際規格の理解と導入」にて講演
3. 情報処理システム高信頼化教訓のリンク集 (IT サービス編) に新規教訓を公開
4. SEC セミナー開催報告 (1 月) および開催案内 (2 月)

IV. IT 人材育成

1. 平成 28 年度春期情報処理技術者試験の受験申込みの受付を開始

I. 今月のトピックス

1. 林幹雄経済産業大臣ご来構

(担当理事：川浦、担当本部長：立石、担当センター長：頓宮)

林幹雄経済産業大臣が、昨今のサイバーセキュリティを巡る状況からその役割の重要性がますます高まる IPA セキュリティセンターに、視察のため 1 月 14 日（木）に来訪されました。

IPA からは、サイバーセキュリティ対策の概要や今後の対応、標的型サイバー攻撃に対処するための取り組みである「サイバー情報共有イニシアティブ J-CSIP¹（ジェイ・シップ）」、「サイバーレスキュー隊 J-CRAT²（ジェイ・クラート）」等についての説明を行いました。

林幹雄経済産業大臣の IPA 来訪の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/security/announce/20160122.html>

2. サイバー情報共有イニシアティブ（J-CSIP）に自動車関連業界が新たに参加 ～2015 年度 第 3 四半期（10 月～12 月）運用状況も公開～

(担当理事：川浦、担当本部長：立石、担当センター長：頓宮)

IPA は、サイバー攻撃に対する情報共有の枠組みである「サイバー情報共有イニシアティブ」(J-CSIP) において、去る 12 月 1 日（火）に新設した自動車業界 SIG³を、正式に運用開始したこと、および 2015 年度第 3 四半期（10 月～12 月）の運用状況を 1 月 26 日（火）に公表しました。

J-CSIP は、去る 2015 年 12 月 1 日から自動車関連企業・団体の計 10 組織からなる「自動車業界 SIG」を新設し、試験運用を行っていましたが、このたび、2016 年 1 月 26 日より情報共有の正式運用を開始しました。これにより、J-CSIP 全体では 7 つの業界（SIG）、72 の参加組織の体制となりました。

今四半期の活動では、参加組織より 723 件の情報提供を受け、IPA による分析を経て、参加組織へ 34 件の情報共有を行いました。

J-CSIP の運用状況の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/about/press/20160126.html>

¹ J-CSIP: Initiative for Cyber Security Information sharing Partnership of Japan

² J-CRAT: Cyber Rescue and Advice Team against targeted attack of Japan

³ SIG: Special Interest Group の略。J-CSIP では、情報共有を目的に業界を軸にした組織をグループ化しており、SIG と呼んでいる。

3. 「攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX」と新国家試験「情報セキュリティマネジメント試験」がコラボ

～ NISC、JNSA と連携したサイバーセキュリティ人材育成・確保に向けた普及啓発キャンペーンの実施～

(担当理事(本部長): 田中、担当センター長: 山城)

IPA は、本年のサイバーセキュリティ月間⁴(2月1日～3月18日)における官民連携イベントの一環として、講談社・攻殻機動隊製作委員会⁵、NISC⁶(内閣サイバーセキュリティセンター)、JNSA⁷(NPO 日本ネットワークセキュリティ協会)と連携して、平成28年度から実施する新たな国家試験「情報セキュリティマネジメント試験」の活用促進など、サイバーセキュリティ人材の育成・確保を目的とした普及啓発キャンペーンを実施しています。

本キャンペーンでは講談社・攻殻機動隊製作委員会の協力により、新規に描き下ろした「攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX」(攻殻機動隊 S.A.C.)のメインキャラクターである草薙素子(くさなぎもとこ)のイラストを用いた普及啓発ポスターを作成し、NISC や JNSA と連携して全国の関係団体や企業などに展開するとともに特設ウェブサイトを公開しています。

IPA は、今回の取り組みを通じて、「情報セキュリティマネジメント試験」が活用され、サイバーセキュリティ人材の育成・確保が進むことで、企業・組織などにおける情報セキュリティ対策がますます向上していくことを期待しています。

本キャンペーンの詳細については、次の URL をご覧ください。

http://www.jitec.ipa.go.jp/sg_collabo/

II. セキュリティセンター

1. コンピュータウイルス・不正アクセスの届出状況および相談受付状況

[2015年第4四半期(10月～12月)]

～不正プログラムの検出数が120,019個(前四半期比 約105.5%増)と倍化～

(担当理事: 川浦、担当本部長: 立石、担当センター長: 頓宮)

IPA は、2015年第4四半期(10月～12月)のコンピュータウイルス・不正アクセスの届出および相談の状況をまとめ、1月25日(月)に公開しました。公開内容の概要は、以下のとおりです。

⁴ サイバーセキュリティに関する普及啓発を強化することを目的に、政府では2月1日から3月18日までを「サイバーセキュリティ月間」としてさまざまな取り組みを実施している。<http://www.nisc.go.jp/security-site/month/>

⁵ 講談社、電通、バンダイビジュアル、プロダクション I.G

⁶ NISC: National center of Incident readiness and Strategy for Cybersecurity

⁷ JNSA: Japan Network Security Association

(1) コンピュータウイルス届出状況

今四半期のウイルス届出件数は 564 件（前四半期比 約 17.7%減）でした。ウイルス検出数は 2,080 個（前四半期比 約 44.8%減）、不正プログラム検出数は 120,019 個（前四半期比 約 105.5%増）でした。

(2) コンピュータ不正アクセス届出状況

今四半期の不正アクセス届出件数は 28 件でした。被害があった届出は 24 件で、そのうち原因が判明しているものは「ID・パスワード管理不備」が 9 件、「古いバージョン使用・パッチ未導入」が 3 件、「設定不備」が 1 件などで、計 20 件でした。

(3) 情報セキュリティ安心相談窓口の相談状況

今四半期のウイルス・不正アクセス関連の相談件数は 3,970 件（前四半期比 約 8.2%増）でした。相談員による対応件数は 1,892 件で、その中で最も多かった相談内容は「ワンクリック請求」で 679 件（前四半期比 約 17.7%減）でした。

コンピュータウイルス・不正アクセスの届出状況および相談受付状況の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/about/press/20160125.html>

2. ソフトウェア等の脆弱性関連情報に関する届出状況

[2015 年第 4 四半期（10 月～12 月）]

～7 社のルータに、意図しない操作を自ら実行してしまう“クリックジャッキング”の脆弱性～

（担当理事：川浦、担当本部長：立石、担当センター長：頓宮）

IPA は、2015 年第 4 四半期（10 月～12 月）の脆弱性関連情報の届出状況を「ソフトウェア等の脆弱性関連情報の取扱いに関する活動報告レポート」としてまとめ、1 月 27 日（水）に公開しました。

今四半期の脆弱性情報の届出件数は 221 件で、内訳はソフトウェア製品に関するものが 134 件で累計 2,376 件、ウェブサイト（ウェブアプリケーション）に関するものが 87 件で累計 9,118 件でした。これにより、2004 年 7 月の届出受付開始からの累計は 11,494 件となりました。

今四半期に JVN⁸で公表した 52 件の脆弱性情報のうち 9 件は、家庭用ルータ、ネットワークカメラなどの組込み機器の脆弱性でした。中でも、今期は意図しない設定変更や操作を自ら実行してしまう可能性のある「クリックジャッキング」という脆弱性がはじめて JVN で公表されました。

ソフトウェア等の脆弱性関連情報に関する届出状況の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/report/vuln2015q4.html>

⁸ JVN:Japan Vulnerability Notes の略。脆弱性対策情報ポータルサイト。

3. 脆弱性対策情報データベース JVN iPedia の登録状況

[2015 年第 4 四半期 (10 月～12 月)]

～ランサムウェアで悪用された脆弱性は広く普及している製品の旧バージョン～

(担当理事：川浦、担当本部長：立石、担当センター長：頓宮)

IPA は、2015 年第 4 四半期(10 月～12 月)の脆弱性対策情報データベース「JVN iPedia」(ジェイブイエヌ アイ・ペディア)の登録状況を「脆弱性対策情報データベース JVN iPedia に関する活動報告レポート」としてまとめました、1 月 28 日(木)に公開しました。

2015 年第 4 四半期に、脆弱性対策情報データベース「JVN iPedia」日本語版に登録された脆弱性対策情報は 1,619 件で、2007 年 4 月 25 日の公開開始からの登録件数は累計 58,094 件となりました。

ランサムウェアで悪用された脆弱性の修正パッチや脆弱性対策情報は、いずれも攻撃が確認されるよりも前に、既に提供されておりました。利用者がアップデートを確実に実施していれば、感染被害を免れることができたといえます。ソフトウェア利用者はバージョンを最新に保ち、自身が利用しているソフトウェアを最新の状態に維持するようにしてください。

脆弱性対策情報データベース JVN iPedia の登録状況の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/report/JVNiPedia2015q4.html>

4. 重要なセキュリティ情報 (1 月)

(担当理事：川浦、担当本部長：立石、担当センター長：頓宮)

IPA では、インターネットを使っている多くの利用者が影響を受けるセキュリティ対策情報を対象に「重要なセキュリティ情報⁹」として公開しています。

「重要なセキュリティ情報」とは、放っておくと不正アクセスやデータが盗まれるなどの危険性が高いセキュリティ上の問題と対策についてお伝えするもので、IPA 情報発信では 2013 年 12 月より広く啓発するため記載しています。発信情報から、ご自身の PC やシステムへの影響を判断の上、速やかな対策を心がけてください。

1 月は、「緊急」1 件、「注意」5 件を公開しました。

重要なセキュリティ情報の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/announce/alert.html>

⁹ 「重要なセキュリティ情報」は、次の基準で対策の緊急度を表しています。

「緊急」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報でかつ、当該問題を悪用した攻撃が実際に行われているケース。

「注意」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報又は、当該問題を悪用した攻撃が行われる可能性があるケース。

Ⅲ. ソフトウェア高信頼化センター (SEC)

1. 「第 13 回クリティカルソフトウェアワークショップ (13th WOCS²)」の共催

(担当理事：川浦、担当本部長：立石、担当所長：松本)

IPA は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) と共同で、1 月 19 日 (火) から 21 日 (木) までの 3 日間、コンgresクエア日本橋 (東京都中央区) にて「第 13 回クリティカルソフトウェアワークショップ (13th WOCS²)」を開催しました。

本ワークショップでは、「つながるクリティカルシステム」をテーマに、「信頼性と検証・妥当性確認 (Reliability and V&V)」、「安全性とセキュリティ (Safety and Security)」、「プロセスと計測指標 (Process and Metrics)」をサブテーマとして掲げ、それぞれのテーマについて解説する基調講演・招待講演や公募による企画コンテストなどを行いました。

本ワークショップには、3 日間で合計約 400 名の方に来場いただき、来場者からは「講演で紹介された技術を自分の仕事に導入したい」、「技術セミナーのコンテストでは他社の取組み・雰囲気を見られて勉強になった」、「一般講演で、技術解説だけでなく技術の普及のための議論を行ったものが良かった」といった意見をいただきました。

IPA では、これらの意見・感想を活かし、今後もイベントの開催を継続していきます。

「第 13 回クリティカルソフトウェアワークショップ (13th WOCS²)」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/events/20160119.html>

2. 「ソフトウェア品質向上研究会主催セミナー ソフトウェア品質向上に向けた国際規格の理解と導入」にて講演

(担当理事：川浦、担当本部長：立石、担当所長：松本)

IPA は、1 月 21 日 (木) に一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (CSAJ) 会議室 (東京都港区) で行われた「ソフトウェア品質向上研究会主催セミナー ソフトウェア品質向上に向けた国際規格の理解と導入」にて講演しました。

本セミナーは、ソフトウェア製品の品質要求および評価の基準である国際規格 ISO/IEC25000 (SQuaRE¹⁰) シリーズの普及を目的に、同規格の導入・活用方法や導入事例・成果の紹介を行うもので、IPA は IoT¹¹時代におけるソフトウェア製品の品質確保の重要性と IPA が発行した SQuaRE をベースにした品質確保のためのガイドブック

¹⁰ SQuaRE (Systems and software Quality Requirements and Evaluation): システムおよびソフトウェア製品の品質要求および評価に関する国際規格 ISO/IEC 25000 シリーズ、国内規格 JIS X 25000 シリーズの総称。スクウェアと読む。

¹¹ IoT (Internet of Things: モノのインターネット)。様々な機器やシステムがインターネットを通じてつながり、互いに情報をやり取りする仕組みのこと。

「つながる世界のソフトウェア品質ガイド¹²」について紹介しました。

当日は 25 名の方に来場いただき、来場者からは「製品同士がつながった場合のリスクや業界の動向など、品質の重要性の背景がよくわかった」、「事例紹介、用語紹介があつて良かった」といった意見をいただきました。

IPA では、これらの意見・感想を活かし、今後も講演活動を継続していきます。

「ソフトウェア品質向上研究会主催セミナー ソフトウェア品質向上に向けた国際規格の理解と導入」の詳細については、次の URL をご覧ください。

http://www.csaj.jp/NEWS/activity/psq/160121_psq.html

3. 情報処理システム高信頼化教訓のリンク集 (IT サービス編) に新規教訓を公開

(担当理事：川浦、担当本部長：立石、担当所長：松本)

IPA は、2015 年 12 月 3 日 (木) より「情報処理システム高信頼化教訓のリンク集 (IT サービス編)」にて、情報処理システムの障害事例情報を収集・分析し、そこから得られたノウハウや知見を「教訓」として整理・体系化して、随時公開しています。

1 月は、以下の 1 件の教訓を新たに公開しました。

教訓 ID	教訓の種類	教訓のタイトル
G10	システム動作の疑義問合せがあつた場合の対応に関する教訓	関係者からの疑義問合せは自社システムに問題が発生していることを前提に対処すべし！

IPA は、本取組みを通じて各教訓の活用を促進し、情報処理システムの障害とそれに伴う被害が最小限に抑えられることを期待します。

「情報処理システム高信頼化教訓のリンク集 (IT サービス編)」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/system/lesson.html>

4. SEC セミナー開催報告 (1 月) および開催案内 (2 月)

(担当理事：川浦、担当本部長：立石、担当所長：松本)

IPA は、事業成果を広く普及・啓発することを目的としたセミナー、ソフトウェア・エンジニアリングに関する国内外の最新動向などを紹介する特別セミナーをそれぞれ実施しています。

1 月は、次の日程で実施しました。

¹² 「つながる世界のソフトウェア品質ガイド ～あたらしい価値提供のための品質モデル活用のすすめ～」
<http://www.ipa.go.jp/sec/publish/20150529.html>

- ・ 共通フレーム解説とプロセス改善推進セミナー
～ソフトウェア開発プロセスにおける組織の課題を見つけて改善するために～
(1月13日)
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160113.html>
- ・ SEC 高信頼化技術セミナー 上流工程における問題を解決するために
(1月15日)
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160115.html>
- ・ SEC 高信頼化技術セミナー
厳密な仕様記述入門 仕様書について考えるワークショップ
(1月20日)
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160120-02.html>
- ・ 第5回定量的マネジメントセミナー (PPMA)
(1月29日)
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160129.html>

2月は、次の日程で開催を予定しています。

- ・ 『ゴール指向経営』 的を射た IT 投資、利益を生む組織に
～「GQM+Strategies」の活用で組織内の整合性確保と定量的管理を実現～
(2月10日)
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160210.html>
- ・ 定量データに基づく開発マネジメントによる信頼性・生産性向上の要諦
～ベンチマーキング国際規格と「ソフトウェア開発データ白書」の取組みから～
(2月12日)
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160212.html>
- ・ SEC 高信頼化技術適用事例セミナー
情報システムが仕掛ける業務改革！事例から BPM の実効性を探る
(2月23日)
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160223.html>
- ・ IT プロジェクトの見える化と定量的管理の理論から実践まで
～見える化の概念、チケット&計測、可視化手法、ツール活用、先進研究～
(2月24日)
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160224.html>
- ・ SEC 高信頼化技術セミナー 形式手法入門—VDM++チュートリアル
(2月29日)
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160229.html>

IV. IT 人材育成

1. 平成 28 年度春期情報処理技術者試験の受験申込みの受付を開始

(担当理事(本部長)：田中、担当センター長：山城)

IPA は、4 月 17 日(日)に実施する平成 28 年度春期情報処理技術者試験(所管：経済産業省)の受験申込みの受付を 1 月 18 日(月)から開始しました。受験の申込みは、郵便窓口やインターネットで行えます。申込方法によって締切日時が異なりますので注意してください。

■ 個人申込み

願書郵送申込み : 1 月 18 日(月) ~ 2 月 15 日(月) 消印有効

インターネット申込み : 1 月 18 日(月) 10 時 ~ 2 月 26 日(金) 20 時

■ 団体経由申込み

1 月 19 日(月) ~ 2 月 15 日(月)

※申込方法によって、締切時間が異なります。

なお、平成 28 年度春期情報処理技術者試験では、受験手数料が 5,700 円に改定され、新たな試験区分「情報セキュリティマネジメント試験」の初回を実施します。

実施する試験区分など、平成 28 年度春期情報処理技術者試験の詳細については次の URL をご覧ください。

http://www.jitec.ipa.go.jp/1_02annai/h28haru_exam.html

i パス(IT パスポート試験)については、CBT 方式にて随時試験実施中です。申込方法などの詳細については次の URL をご覧ください。

<https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/index.html>

問合せ先 独立行政法人 情報処理推進機構
戦略企画部 企画・調査 G 笛木・中山
〒113-6591
東京都文京区本駒込二丁目 28 番 8 号
文京グリーンコートセンターオフィス
TEL : 03-5978-7503
E-mail : spd-plan@ipa.go.jp